

### 参照原図

*Temple de la Fortune Virile à Rome* = フォルトゥーナ・ウィリーリス(男運女神)の神殿(ローマ)

- 1) エンタブレチュア、柱頭、柱礎の詳細図(半径=30とした比例値の書込あり)
- 2) 柱頭の渦巻(ヴォリュート)の作図法詳細図(一部に半径=30とした比例値の書込あり)
- 3) 正面ファサード立面図(寸法についての書込は一切無し) イオニア式円柱による前柱式にして四柱式の神殿正面

\* 出典 CHAMBRAY, Roland Fréart, sieur de: *Parallèle de l'architecture antique et de la moderne*, Paris, 1650, 1702, p.41, p.61, p.63. 邦題『古代建築と現代建築の比較』

\* 用語については2年後期の西洋建築史の講義で教授するが、各自、『建築大事典』などで簡単に調べておくこと。

### 課題内容

\* 正面ファサード立面図をA2判ケント紙にインキング仕上げ。枠とタイトルも付すこと。

\* 製図ペン、カラスグチ以外のインキングは不可。着色も無用とする。

\* 原図は円柱の半径を基準寸法とし、さらにその1/30を下位の基準単位として寸法が記されている。本課題ではこの下位の基準単位、すなわち、半径の1/30を0.5mmとして作図すること。

\* 柱頭、柱礎を含む柱の高さは半径の18倍、柱間寸法(インターコラムニエーション)は半径の4倍、5倍、4倍とする。

\* ペディメント勾配、扉の高さなどは各自、図版を測って参照すること。ただし、原図は数度の複写を経ているので歪んでいる。半径の整数倍、整数分の1などとなるように値を丸めることが必要。

\* エンタシスは数種類の曲線定規を組合わせて適切に作図すること。型紙を作って繰り返し使用してもよい。

\* 彫刻、ペディメント上の彫刻台座、正面浅浮彫、フリーズ装飾などの彫刻要素は描かなくてもよい。

### 課題目的

- 1) 原図は17世紀半ばの銅版印刷であり、それゆえ、線だけで陰影やテクスチュアが表現されている。色でごまかすことなく単色の線だけで美しくプレゼンテーションする手法を体験する。
- 2) 正面ファサード立面図の原図には寸法の記載がない。詳細図に記された寸法から立面全体を再構成し作図する訓練をする。つまり、ある図面の「コピー」が本課題のねらいではない。
- 3) 近年、古典主義の歴史的建造物の保存再生が課題となることがあり、また、新築の場合でも古典主義建築に由来する建築要素を用いる例も多いが、古典主義建築の建築ヴォキャブラリーの無理解に起因する失敗が度々みられる。そうならないための一助として、古典の適切な比例に基づく作例に触れる。

### 採点基準

1) 未完成の場合は60点未満とする。原図の拡大コピーの写しとりは試験の不正行為と同様であることに注意。

2) 柱身の条溝(フルーティング)、陰影を除き、立面図の全ての建築要素が描かれていれば60-100点。

3) 上記に加えて条溝、あるいは陰影まで**端正**に描かれていれば70-100点。

4) 上記に加えて条溝、および、陰影まで**端正**に描かれていれば80-100点。

5) 全ての建築要素に加え、彫像や浅浮彫、フリーズ装飾などの彫刻要素まで**端正**に描かれていれば90-100点。

\* 原則として彫刻要素は描入れない。彫刻以外が不出来の場合、彫刻も評価対象としない。建築本体に力を集中すべし。

\* 線をきちんと止めているか、にじんでいないか、線の性質によって適切な太さのペンを選んでいるかも評価対象とする。

したがって、条溝や陰影など「端正に」描かれていない場合、それらは最初から描かれていなかったものとして評価する。

